

ペリト・モレノ氷河（地学散歩(48)）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長島, 昭 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025317

ペリト・モレノ氷河

長 島 昭

南アメリカのアンデス山脈には数多くの氷河がある。パタゴニア（アルゼンチン）の南部の氷河国立公園にあるペリト・モレノ氷河は、公園内に百余りある氷河の中で最も人気があり多くの観光客が訪れている。

その魅力は氷河の高度が低く、その末端に容易に到達出来ることと、氷河末端がアルゼンチン湖に接し、時折、大音響と共に氷柱（セラック）が湖に倒れ込んで、その瞬間に水しぶき上がり、氷河が活動していることを示すからである。

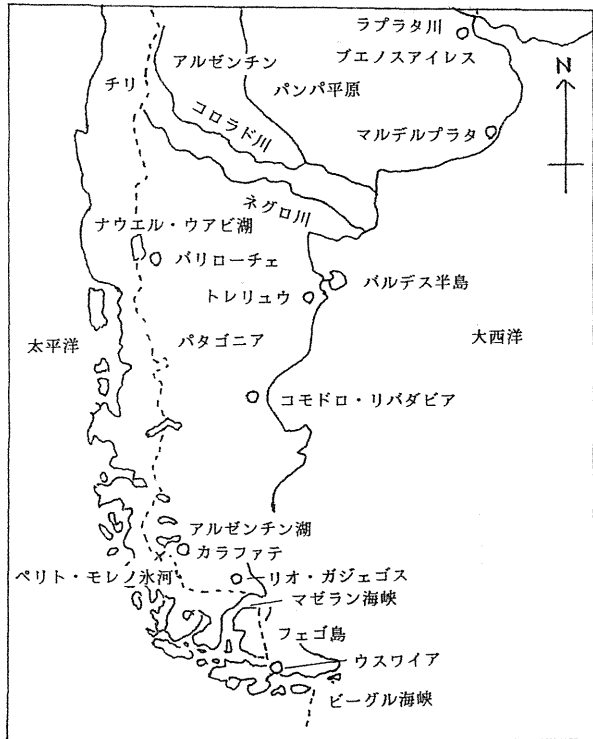
氷河の前壁の氷柱が崩れる瞬間は、夏には1日に数十回見られるというが、それを見るためには忍耐がいる。

氷河は夏には1日に約2m流下するという。流下の圧力によって生じた氷柱は、その圧力で湖に崩れ落ちる。氷河の流れは中心付近が最も速い。展望台から氷河を見ている時、時々

「ドカーン」とか、「ミシ、ミシ」とか、「ガラ、ガラ」という音が聞こえる。これは氷河が流下することによって、氷河内部で氷の破壊や氷柱の衝突などから発生する音で、音が聞こえた方角を見ても氷河には変化がないことが多かった。

氷河を上空から見ると、先端付近は青味がかかった氷柱が林立し、氷柱の間にすき間が目立つ。少しさかのぼると、下流側にたわんだ畑の畦（うね）のように見える氷の高まりが波のように続いていた。これが波状オーギブである。これより上流側には所々に青色に見える水溜りが見え、クレバス（割れ目）が目立つ。氷河の中央部には黒いモレーンの筋が3本ほどはっきり見え、上流に続いている。氷河の上流部は雲に覆われているが、このモレーンの筋から上流では幾つかの谷から氷が流れ込んでいることが分かる。

湖の水の色が青緑色に見えるのは、氷に混じっている氷河が削って出来た岩粉が水中にただよっているので、差し込んだ太陽光線の中の主として青と緑色が反射してくるからである。



(1)



写真1 「ペリト・モレノ氷河」(アルゼンチン・パタゴニア)

氷河前端には氷柱が林立し、氷壁の氷柱が時折、大音響を上げて崩れ落ちて水しぶきを上げる。氷壁の中央下部にはモレインの筋が見えている。

ペリト・モレノ氷河

位置 南緯 50°28′ 西経 73°03′ 氷壁の高さ 80~100 m

長さ 分水嶺から約 35 km 1日の流下量 約 2 m

氷河末端の幅 約 4 km

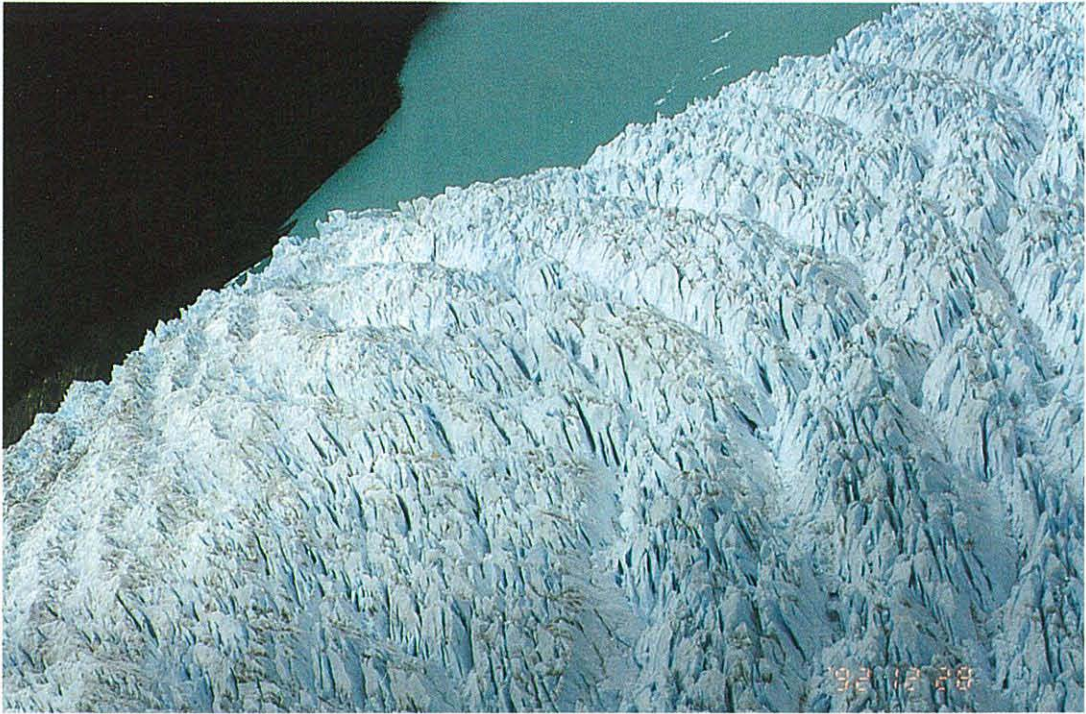


写真2 ペリト・モレノ氷河の波状オーギブ



写真3 ペリト・モレノ氷河のモレインのすじ